

東方の記憶

2019年 レクチャー付き上映ツアーのご案内

HILLSTREAM
PICTURES


Finnish Institute in Japan
フィンランドセンター



Svenska
kulturfonden

THE SCANDINAVIA-JAPAN
SASAKAWA FOUNDATION

概要

日本とフィンランドの外交100周年を祝うイベントのひとつとして世界各地で高い評価を受け複数の賞を受賞した長編ドキュメンタリー映画「**東方の記憶**」を共同監督を務めた**ニクラス・クルストルム**監督と**マルティ・カルティネン**監督自らのご案内いたします。

フィンランドセンターでは全国の大学を対象に、この映画の上映と上映後の簡単なレクチャーやディスカッションを行うツアーを計画しており、上映を希望する大学を募集しています。レクチャーのテーマは映画の主題でもある、比較言語学者で初代駐日公使であった故**グスタフ・ラムステッド**です。

ニクラス・クルストルム監督とマルティ・カルティネン監督は、**フィンランド大使館、フィンランドセンター、フィンランド日本協会の協力により**、二週間に渡って来日し日本各地の大学を回る予定です。またツアーの一貫として、フィンランドセンター所長である**Dr.アンナ=マリア・ウィルヤネン**がラムステッド氏の素晴らしい社会的ネットワークとそれが日本とフィンランドの友好関係にどのような影響をもたらしたかについて短いプレゼンテーションを行います。上映ツアーは**2019年10月**を予定しております。

映画について

「**東方の記憶**」とフィンランドの言語学者G・J・ラムステッドの思考の旅、19世紀後半の世界の思想や伝統をめぐる旅に焦点をあてたものです、ラムステッドが旅した世界は現在は進歩と実用主義に置き換えられてしまいました。映画はモンゴルから日本を過去、現在にわたって旅をします。そして、二つの平行な現実、過ぎ去りし世界と今日という時代のはかなさを映し出します。過去の伝統、自然、都市は形を変えてゆき、そこに生まれた孤独と義務感の葛藤、ラムステッドは過去の証人であり、また私たちが現在を覗くための鏡でもあります。

「**東方の記憶**」は、2018年1月に最初に上映されてから世界各地の国際映画祭で上映されてきました。コペンハーゲン、ニューヨーク、シアトル、ミュンヘン、ケンブリッジ、ワルシャワ、クラコフ、カルタヘナ、サンパウロ、カトマンズなどでこれまで上映され、複数の賞を受賞しました。今後も世界各地で上映予定であると共に、フィンランドの国営公共放送**YLE**でも放映されました。またこの映画はモンゴルでも公開されました。

映画音楽はエレクトロニックミュージシャンのラスムス・ヘドランドが担当、彼はエレクトロニックアンビエントの作品を作るために、野外の音を素材として生かすにフィールド録音を行うことで知られています。映画のサウンドトラックはビニール盤レコードとeミュージックでリリースされています。



G・J・ラムステッド

映画「**東方の記憶**」の主人公でもあるグスタフ・ヨーン・ラムステッドは、最初のフィンランドの駐日外交代表として**1919年**に来日しました。今日の日本とフィンランドの友好関係の礎を作ったのは彼であり、彼の高い日本語能力と人柄に拠るところが大きかったのです。ラムステッドは日本の皇室の方々とともに懇意にしていました。と同時に、彼はとても庶民的で、相手の地位や経済的背景など関係なく、友情関係を築きました。そして言語と文化に対する飽くなき探究心を持っていました。こうした彼のストーリーは現代という舞台設定の中で作品の中で語られます。

ラムステッドは共産圏になる前のモンゴルを訪れ、そこにつたわる詩や物語、寓話や歌を集め、モンゴルの文化に対する考察を書き残しました。彼の研究は現代においても、モンゴル語を学ぼうとする人の基礎となっており、彼がモンゴル語教育に果たした貢献の大きさは計り知れません。

「**東方の記憶**」はラムステッドの回顧録に基に、モンゴルと日本の過去と現在を往来します。映画のなかで、100年前の言葉をかたるラムステッドの声と現代と連動することで、時間という概念をより浮き彫りにし、現代という環境の中で過去を経験するという特異の体験を観るものに与えます。映画を通じ観客は過ぎ去った時代を生きた先人たちとつながり、そして同時に現代の私たちがいかに自然から切り離され、そのことによってどれだけの知恵が失われたかを知るようになります。



『東方の記憶』スチール写真

上映

上映は、日本国内の都市を巡回して行われる予定です、東京、京都、大阪、名古屋などを予定しています。上映は大学側の希望を伺ったうえで、ディスカッションやレクチャーとセットで行われる予定です。東京では、すでに東京外国語大学との提携が決定しております。このプログラムでは、日本の学生や一般の市民の方々について、映画のテーマでもある文化的伝統や環境について、そして未来を計画するためにはまず過去を見つめることが大切であること、そうしたことについて考えていただく機会にしたいと思っております。この長編映画の上映と、その後のトークセッションがあたらしい考え方やひらめきを聴衆にもたらずものとなり、ラムステッドが残したレガシーや記憶に再び焦点があたるきっかけになることを願っています。

この映画製作者達は2018年秋**モンゴル**で上映ツアーを行いました。映画は、遊牧民、都市で暮らす人たち、学生そして、ご年配の方々など様々な人たちから高い評価を受けました。映画鑑賞のあとに行われた対話の時間は、非常に活気を与えるもので、そこから参加者が自分の視野を大きく広げるようなインスピレーションを受けるものとなりました。今回、両監督は、日本のオーディエンスの皆様にも同じような体験をしていただけたらと願っています。

上映前のイントロダクションと上映後のプログラムについての

上映への導入として、はじめにフィンランドセンターの**アンナ=マリア・ウィルヤネン**所長が**グスタフ・ヨン・ラムステッド**の幅広い交友関係がいかに日本とフィンランドの友好関係の構築に大きな役割を果たしたかについてお話しします。また上映のあと、ご提携先の大学の希望に応じて、上映後のトークを企画したいと思います。ご要望に応じて、ディスカッション形式かレクチャー形式かご選択いただくことができます。テーマは映画に関連するテーマや提携先の大学のプログラムにのっとった形でご設定いただくことができます。すでに提携が決まっております東京外国語大学においては、「外交」をテーマにパネルディスカッションが行われる予定になっております





モンゴル・ツアー2018中、カラコルムでの上映準備



モンゴル・ツアー2018中、ダルハンでの上映



モンゴル・ツアー2018中、ハイルハンにて休憩をとる映画スタッフ

参加メンバーについて

マルティ・カルティネンは映画製作者であり、脚本家でもあります。また俳優としてメジャーな映画祭などでも上映され、テレビ放映もされた短編映画に主演しました。「**東方の記憶**」では、背景取材のために、東京に一月、モンゴルに6か月、中国に数週間、旅をしたり、地域の人たちと共に暮らしたりして取材にあたりました。現在も、いくつかの映画の製作に、監督、作家、あるいは俳優として関わっています。またジャーナリストとしても社会的、あるいは、文化的な記事を様々な媒体に向けて書いてきたほか、写真報道もいくつもの雑誌で発表しています。これまでヨーロッパの様々な都市で暮らしてきましたが、現在はベルリンを拠点にしております。

ニクラス・クルストルムは、フィンランドのフィルムメーカー、プロデューサー、撮影カメラマン、エディター、メディアアーティストです。ヘルシンキで生まれ育ちましたが、これまでに日本、アイスランド、イギリス、ラトビア、ロシアなど様々な国で暮らしてきました。現在はベルリンを拠点に活動しています。彼の最新の作品は「**東方の記憶**」で、プロデューサー、共同監督を務め、撮影、編集を担当しました。2018年に初公開され、これまで様々な国際映画祭で上映され、複数の賞を受賞しました。また2016年、短編コメディ「**The Dijon-Story** (ディジョンストーリー)」(監督 **Mikko Myllylahti**)をプロデュース、撮影、編集にあたりました。セルビア人の映画監督・プロデューサーの**ボリス・ミティック**とも親交が深く2017年にロカルノで初上映され、ほぼすべてのメジャーなドキュメンタリー映画祭に参加した「**In Praise of Nothing** (何も褒めたたえず)」でも長期にわたって協力しています。またメディアアーティスト、写真アーティストとして、現代アート作品を発表しています。彼のアート作品は、デジタル化とテクノロジー化がもたらした美的および社会的挑戦をどう受け止めるかがテーマとなっています。2015年にハンブルグ写真トリエンナーレに出展したほか、これまで複数回にわたって国際的な展覧会で作品を発表しています。現代アートに加え、写真家そして大学の講師としても活躍しています。

アンナ=マリア・ウィルヤネンはフィンランドセンター(東京)の所長で、美術史で博士号を取得しています。フィンランドセンターは現在、フィンランドと日本の外交関係に、ラムステッドの交友関係(社会的ネットワーク)がどのような影響を与えたのかをテーマに研究を行っています。



2016年にモンゴルと日本で行われた撮影のメイキング写真

上映に関する詳細な情報と技術的な側面について

上映は、大学や、提携機関に対して上映料なしで提供されます。

上映時間:	86分
画面アスペクト比:	2.39:1
サウンド:	5.1 サラウンド またはステレオ
言語:	英語、日本語、モンゴル語、中国語、韓国語
製作年:	2018年
上映バージョン:	DCP 2K(5.1 サウンド) ProRes 422 1080p (ステレオまたは5.1サウンド) H.264 1080p (ステレオサウンド)

全てのバージョンに日本語字幕または英語字幕がつきます。

連絡先

HILLSTREAM PICTURES

Niklas Kullström - +358 50 520 3444 - niklas@hillstream.fi

Martti Kaartinen - +358 40 750 8639 - martti@hillstream.fi

フィンランドセンター

所長 Ph.D. Anna-Maria Wiljanen - 080-4069-7846

anna-maria.wiljanen@finstitute.jp



『東方の記憶』スチール写真